



安倍首相！違憲です！こんな説明で強行採決ですか？

9月5日(土) 16:00~17:00。7月の衆議院での強行採決以来、代田・九条の会の恒例になったオオゼキ前での「戦争法案廃案」の宣伝署名行動を行った。急な呼びかけにもかかわらず、11名が参加。交替でマイクを握って訴え、自由法曹団作成の安倍政権の戦争法制づくり Part2「安倍首相！違憲です！こんな説明で強行採決ですか？」と9・12世田谷区民集会&ピースパレードのチラシを配布しました。

夕方の買い物客とお祭りで賑わう街、家族で署名を行った小学生は「ぼく戦争に行きたくない」と、「安倍首相はひどいね!」。乳母車で通りかかったお母さんなど74名の署名が集まり、チラシ90枚を配布。でも中には、「戦争法案というのはおかしい」と言う声も聞かれ、違憲法案の廃案にむけて、反対世論と運動を強めていきましょう。

来週にも参議院での強行採決も予想されています。非常に緊迫した状況になってきています。「戦争法案反対」「廃案」の声をもう一回りも二回りも大きくしていくことが大事です。「丁寧な説明」がされていないのみならず、審議をすればするほど閣僚が答弁不能になっていく法案は、本来法律としての基本ができていないことを意味しています。

次回は、**9月13日(日) 16:00~17:00 オオゼキ前**です。多数の方の参加で廃案に！
(代田5丁目 小澤清子)

なんと12万人が国会を包囲して抗議行動！

8月30日生憎の雨空のもと代田・九条の会有志は「戦争法案廃案！安倍政権退陣！8.30国会10万人、全国100万人行動！」に参加しました。下北沢西口ローソンわきに13名、永田町に5名が集合、合流の予定を永田町が混雑のため出口封鎖でやむなく別行動に。下北沢集合組は霞が関から日比谷公園側に行き、人をかき分けようやく日比谷エリアステージの向かい側にたどり着きました。ステージでは民主党の枝野氏、共産党の小池氏、社民党の福島氏、作家の佐高信氏、落合恵子氏、雨宮処凛氏など大勢の方が次々に怒りの声をあげました。そのなかのひとりにはこんなに多くの人が意思表示していることは民主主義が根付いていることだから心強い、それを踏みにじろうとしている安倍政権は許せないと発言。まったく同感で、私たちも3度にわたり「戦争法案絶対反対！今すぐ廃案！戦争する国絶対反対！」など、安倍政権へ怒りを込め思い切りシュプレヒコールしました。

下北沢集合組には、8月22日にオオゼキ前でのチラシ配布&署名活動の折にチラシを見て今回の行動に参加された方がいらしたのです。地元での地道な活動が大事なのですね。

戦争をさせない・9条壊すな！総がかり行動、シールズ、安保関連法案に反対するママの会、学者の会などの呼びかけで集まった人は主催者発表で12万人、国会前、霞が関から日比谷までを埋め尽くしたひと、ひと、ひと。警察発表の3万3千人ってなに？

この日全国で約350か所で抗議行動が行われたようです。もっともっと大きなうねりにして、戦争法案を廃案に持ち込みたいと強く願います。

(代田5丁目・日暮 恵子)



報道写真

映画「ああ声なき友」佐々木繁男さんが語る「私の戦争体験」

猛暑の続く8月16日（日）午後、北沢タウンホール・らぶらす第3研修室にて終戦記念日によせて「戦争体験を語り継ぐつどい」を開催。戦争法案が国会で審議中ということもあって、50人の参加で立ち人がでるほどでした。

映画「ああ声なき友」は、今井 正監督、有馬 頼義原作によるものです。製作・主演の渥美 清扮する主人公は、傷病兵として1人帰国し、自分の生活を犠牲にして、託された遺書を8年かけて全国各地の遺族に届けに行くというもの。遺書の宛先の多くが妻であり、前線の状況と絡めながら銃後を護ってきた女性たちが、敗戦後をどう生きぬいてきたかを物語っていると思った。

佐々木繁男さんは「わたくしの8月15日」と題してレジメに基づいて話した。始めに「玉音放送」を流し、小森陽一さんの本「玉音放送」で中国侵略についてふれず、敗戦の意識がないなどを紹介。佐々木さんは1944年2月に入隊、一兵士として中国戦線に従軍、戦後「蟻の兵隊」として中国人民解放軍と闘い、捕虜生活、帰国まで11年を要した。大日本帝國憲法下で教育勅語・軍人勅諭・東条英機陸軍大臣による「戦陣訓」等により戦争への道を進んで行った時代の中で、20代の多感な青年時代を過ごした。皇軍の名のもとに「殺し殺される」悲惨な戦争体験を語ることは、辛いことですがお話しして頂き感謝します。

歴史を繰り返させないために、「戦争法案」廃案にむけて正念場と強く思ったつどいでした。



佐々木 繁男さん



(代田5丁目 小澤 清子)

川内原発の再稼働の停止を求める

九州電力は、8月11日に鹿児島県薩摩川内市にある川内原発1号機の再稼働を強行しました。

福島第1原発の過酷事故から4年と4ヶ月が経過しました。原発事故は人々の暮らしや生業に深刻な被害を及ぼしました。今でも11万人を超える方々が故郷を追われ、厳しい避難生活を強いられています。放射線による健康被害も深刻化しつつあります。福島県では、100人以上の子どもたちが甲状腺ガンに罹りました。

メルトダウンした核燃料の残骸は、今も強い放射線を放っており、これが事故を検証することも原因の解明を進めることも妨げています。日に日に増える汚染水の保管も処理も不完全で、海洋や大地を放射能で汚染し続けています。原発事故は収束とはほど遠い状況です。

このような現実を置き去りにして、何故原発の再稼働がゆるされるのでしょうか。国や電力会社は、避難者一人ひとりの生業の再建、地域社会の再生、広域での健康実態調査などに取り組むべきです。

2013年9月に関西電力大飯原発3,4号機が運転を停止してから、2年近くにわたり原発ゼロが続いています。この間、電力の不足が私たちの生活に支障を来すことも、産業に停滞をもたらすこともありませんでした。この事実は、私たちの社会が原発を必要としていないことを証明しています。

政府は原発推進の政策を捨て、再生可能エネルギーを大量に利用したエネルギー政策に転換すべきではないでしょうか。

政府は新規制基準を「世界最高水準」と言いますが、司法は「新規制基準はおだやかにすぎ、これに適合しても原発の安全性は確保されない」と断じています。さらに、新規制基準は、事故が起こった場合の避難計画は審査の対象外としており、国際的な安全確保の基準にも達していません。原発がこのような基準に適合したとしても、その稼働は決して許されるものではありません。

世論調査では、鹿児島県でも全国でも6割近くの人たちが再稼働に反対しています。その多くは、「事故が起これば深刻な被害が出る」、「核燃料の廃棄物の処分が目途が立たない」ことなどを理由に挙げています。九州電力はこれらの声に真摯に耳を傾け、再稼働を直ちに止めることを求めます。

(代田2丁目・坂本 功)

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

戦争体験を語り継ぐつどい アンケート より

1 映画「ああ声なき友」について

- ・このような映画があることを知りました。映像は心に刻まれてよいです。
- ・全く知らなかった映画。戦争の被害者は一般市民。一人一人の弱い人間が最悪の苦しみを受けるものと改めて思いました。
- ・遺書の郵便屋さんを通じて戦争に生きてきた断面を学ぶことができました。
- ・「終戦記念日によせて」にもう少しふさわしい映画があるのではないかと思います。9条の会でこういう映画を見ていることに正直言って驚きました。
- ・こんな映画があるとは知りませんでした。良かったです。
- ・昔の名優が沢山出演していてすごいなと思いました。題名は知っていましたが、今まで見る機会がなかったのですが、映画としても楽しめました。
- ・反戦映画としてはいい映画だと思います。
- ・生き残った兵士（渥美 清）が、戦後8年間も預かった手紙を遺族に届ける律儀さもさることながら、それぞれの反応をオムニバス風に描かれ面白かった。また、知っている俳優の若き日の姿がみられ懐かしかった。
- ・戦後の遺書を受け取る人の気持ちも様々だったのが印象的でした。
- ・以前新聞で取り上げていたので見たいと思っていた。つくづく戦争に人生を狂わせられた多くの人たちがいたのだなと思い、父母と父の弟のことを考えながら見ていました。父の弟と私の母は結婚していましたが戦死し、復員した父と結婚し私が生まれました。母と叔父は周囲に反対されながらやっと結婚したそうです。
- ・主人公は部隊でただ一人生き残った兵士。戦後の自分の生活を犠牲にして預かった遺書を全国各地に届けに行く。本当に真面目な人。死んでいった兵士たちの遺書を持ち続けることは自らに許せなかったのでしょうか。
- ・戦争は絶対やってはなりません。

2. 佐々木 繁男さんのお話について

- ・とっても具体的でよかった。知らないことが沢山あると思いました。
- ・貴重なお話をありがとうございました。現在の、自分で考え、行動できることのありがたさを改めて思います。後戻りをしないように、自分のできることをしたいと考えています。
- ・事実を分かり易くお話下さり有難うございました。様々な記録にあたってみたいと思います。
- ・戦争を体験。それに対する悲惨な経験を語り、自らの体験をムダにしないで反戦。戦争に対する反対運動の先頭に立っていることに感銘を受けた。自分の今後の生き方に生かしたい。
- ・体験者の話を聞く機会は大変貴重です。こちらにもっと時間が取れたらありがたかったと思います。
- ・11年も中国で大変ご苦労されたことがよくわかりました。
- ・淡々と語られたが、慰安婦問題もあり、人の命を軽く見て同胞を殺すのも平気なのが皇軍の実態と感じた。
- ・戦争体験者の話として、非常に貴重な話だと思います。
- ・実際に一兵士として中国戦線に従軍され、5年間も戦犯管理所で過ごされた方の話は初めてでした。
- ・ほんとにお疲れ様でした。長生きをして話をいろいろな人にお聞かせください。とても勉強になりました。玉音放送に「中国との事は触れられていない」「天皇制を続けさせるためのものだ」とは知りませんでした。
- ・佐々木さんは91才とは思えないしっかりした話しぶりで、思い出したくないであろう軍隊での出来事を話し絵下さった。戦争は理性をマヒさせてしまう。日本兵が反戦兵士（日本兵）を虐殺など、初めて聞くことで本当に恐ろしいと思った。でも強靱な体力、精神力で帰国され本当に良かった。
- ・戦争体験は悲惨で、人間が人間でなくなってしまう。天皇の軍隊の話は初めてお聞きしました。

3. 今日をつどい全体について

- ・初めて参加しました。地域の参加者の多さに驚きました。若者の参加がもっと広がることを！
- ・テーマのはっきりした映画の上映はよい企画と思いました。
- ・もっと若い人が参加するような取り組みが必要だと思います。
- ・映画の上映と戦争体験者の方のお話を聞けて、また一つ戦争について考える機会になりました。
- ・私達は親が出征したり、このような元兵士の方の話を聞き、悲惨な戦争を想像することが出来るが、40代以前の若い人たちに何とか惨状を伝えたいと思う。
- ・反戦のイベントがあることは素晴らしいことだと思った。

4. 代田・九条の会のとりくみ

- ・本当の平和を目指すには、東アジアの人たちとの相互理解こそ重要だと思います。そのためには、日本がおよそ6~7倍の命を奪った事実をきちんと学び、共通認識とすべきだと思います。
- ・平和の活動の輪をさらに広げてください。
- ・ほんとにコツコツと活動されていることに頭が下がります。今こそ地域ごとに9条を守る活動が必要ですね。私も地元で頑張ります。

5. その他 (何でも結構です)

- ・若者への平和の訴えを集いだけでなく、文化活動（絵・書道・スポーツ）の世界にもさらに広げてほしい。

国会は9月27日まで 緊急の行動が提起されています

ぜひ多くの方が参加されることを訴えます

9月12日(土) 15:00~ 世田谷区民集会&ピースパレード
会場: 世田谷区役所前広場 集会後、三軒茶屋までパレード

13日(日) 16:00~ 代田・九条の会 街頭行動
場所: 下北沢・オオゼキ前付近

14日(月) 以降

13:00~ 国会正門前座り込み行動

18:30~ 国会正門前大集会 (14日は、国会包囲大行動)

主催: 許すな戦争法案! みんなの力で廃案へ! 総がかり行動実行委員会
http://sogakari.com/?page_id=67

* 政府・与党が狙う、16日: 委員会採決、17日: 参院本会議採決をやめさせるために、これ以降もいろいろと計画がされています

近くの事務局員にお尋ねください

集会等の紹介

11月3日(火・文化の日) 午後1時半~4時半

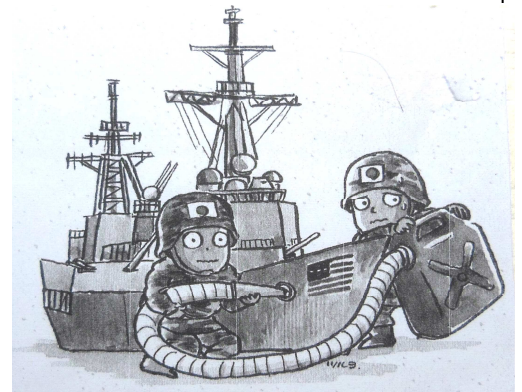
代田・九条の会 結成7周年記念の集い
(計画中)

会場 日本基督教団・都民教会
(「下北沢駅」西口より徒歩5分)
連絡先 代田・九条の会

11月7日(土) 午後

世田谷九条の会 結成10周年記念のつどい

会場 世田谷区民会館・集会室
主催 世田谷九条の会



日本国憲法

前文

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたつて自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであつて、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立たうとする各国の責務であると信ずる。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。

お願い: ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。
また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。